

ぼくは最近、チョコレートを買う時にあることを意識しています。

中学生になってから少しお小遣いをもらうようになり、文房具やお菓子などを自分で買うことが増えました。

あるとき母に「たくさん種類があってどれも美味しそうで悩んだわ、結局新製品の表示が気になって選んでん。」とパンを買ったことを話しました。すると母は「私は好きなチョコレートやコーヒーを買う時はフェアトレード商品を選ぶことがあるよ。わずかでも確実に社会貢献につながるし、無理なく続けられて、改めて世界に目を向けるいい機会にもなるからね。」と言いました。

それから「期間限定」や「ネットで話題の!」といった広告はとても気になるのですが、それとは別にパッケージの隅を見て「フェアトレードマーク」が表示されているか、そうでないかを意識するようになりました。

「フェアトレード」を日本語に訳すと「公正な貿易、取引」という意味で、途上国などの生産者の生活改善と自立を実現させるため、生産者が無理をしなくても十分に生産できる値段で取り引きする仕組みです。生産者のことを第一に考えた世界的なシステムです。

それ以来、買って食べて満足することからもう一歩踏み込んで広い視野で商品を見てみようとして「フェアトレード」について調べていきました。すると大切な人のため、全ての人が幸せに暮らすため、地球の未来のために、今世界で取り組んでいる『SDGs』の一つ「つくる責任、つかう責任」の「エシカル消費」につながりました。

『SDGs』は授業で学び知ってはいたものの、ぼく達にはまだ先の話かな、大人になってから生活の中で取り入れられたらと他人事のようにでしたが、今からでも少しずつできることがわかりました。

日本での「フェアトレード」の市場規模は、世界中の取引金額に対し約1%（Fairtrade International 年次レポート2017～2018より）と非常に少ないことを知り、自宅の近所のスーパーやコンビニエンスストアで商品を調べてみました。すると豊富な種類のお菓子の中でフェアトレード商品はスーパーでは確かにほんの一部でした。意識が低くてもそれは仕方ありません。欲しいものにフェアトレード商品が無いことのほうが多いのですから。

大きな企業や組織が生産者と良い関係でお互いが努力し、協力し合わないと、スムーズに色々なものをたくさん流通させることがまだ難しいようです。フェアトレード商品があれば迷わずそれを選ぶ社会が理想的だけど、好き嫌いもあるし、経済の活性化には流行の商品が不可欠でしょう。

しかし、環境問題、SDGsの課題は、誰もが決して先送りにしてはいけない。できることがあるとわかったらまずは一歩前に進みましょう。何でも心がけと小さな一歩からのスタートだと思います。小さな一歩に価値があります。世界と共存している責任感を、押し付けではなく自ら少し意識していきたいと思います。生産者と販売者、消費者の間にしわ寄せがなく、循環すること、継続することが大切なのです。

そしてたくさんフェアトレード商品が増えて欲しいと思います。サッカーボールにはフェアトレード商品があることを知りました。ぼくが大好きなテニスボールもできるといいなと思います。

初めて買ったフェアトレードへの誇りとチョコのほろ苦さを忘れず、本当に必要なもの、大切なものを見極められる、正しく判断ができる大人に成長する一歩にしたいと思います。